

## 小田原市教育委員会臨時会議事録

- 1 日時 平成27年7月23日(木) 午後7時00分～午後9時00分  
場所 小田原市役所 7階 大会議室

2 出席した教育委員の氏名

- 1 番委員 吉 田 眞 理  
2 番委員 栢 沼 行 雄 (教育長)  
3 番委員 萩 原 美由紀 (教育委員長職務代理者)  
4 番委員 和 田 重 宏 (教育委員長)  
5 番委員 山 口 潤

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

- 教育部長 内 田 里 美  
教育総務課長 柏 木 敏 幸  
教育指導課長 市 川 嘉 裕  
指導・相談担当課長 石 井 美佐子  
教職員担当課長 菴 原 晃  
教育指導課指導主事 綾 部 敏 信  
教育指導課指導主事 楠 喜久子  
教育指導課指導主事 堀 田 亜 衣  
教育指導課指導主事 川 口 宏 美  
教育指導課指導主事 山 本 礼 子

(事務局)

- 教育総務課総務係長 高 瀬 聖  
教育総務課主査 小 林 隆

4 議事

- 日程第1 議案第24号 特別支援学級で使用する教科用図書の採択について (教育指導課)

5 協議事項

- (1) 平成28年度使用中学校教科用図書の採択に向けての協議について (教育指導課)

6 議事等の概要

- (1) 委員長開会宣言

(2) 議事録署名委員の決定…吉田委員、栢沼委員に決定

(3) 日程第1 議案第24号 特別支援学級で使用する教科用図書の採択について

(教育指導課)

提案理由説明…教育長、教育指導課長

栢沼教育長…それでは、議案第24号「特別支援学級で使用する教科用図書の採択について」

をご説明申し上げます。特別支援学級における教科用図書の採択については、

「学校教育法附則第9条」により、1年ごとに採択することになっております。

細部につきましては、所管からご説明申し上げます。

教育指導課長…それでは、特別支援学級で使用する教科用図書の採択につきましてご

説明申し上げます。特別支援学級におきましては、通常の学級で使用いたしま

す教科用図書を使用することが適当ではない場合に、一般図書及び特別支援学

校用教科書の2種類から使用することができるようになっております。資料で

ございますが、細かい資料になりますけれども、1ページから8ページまでの

資料となります。学校教育法附則第9条に基づきました一般図書の採択につ

きましては、毎年採択することができることになっておりまして、各学校が児童

生徒一人ひとりの状況に応じまして選択した図書を学校の設置者であります所

管の教育委員会が教科書として採択するものでございます。各校の選択にあ

たりましては、文部科学省作成の平成28年度用一般図書一覧、平成27年度用

一般図書契約予定一覧、神奈川県教育委員会が作成しました平成28年度使用

神奈川県特別支援学校採択教科書図書調査研究資料を参考にいたしまして、各

児童生徒に応じたものを選択しているものでございます。委員の皆様にご本

日ここでご審議いただき、平成28年度特別支援学級で使用する教科用図書の採

択につきましては、今お話ししました資料一覧のとおりでございます。これは、各

児童生徒用図書として200冊、発行社ごとにまとめたものを1ページから7

ページまでにお示ししてございます。特別支援学校用の教科書から児童生徒に

適しているとした図書につきましては、文部科学省が作成した特別支援学校用

教科書目録から、(3)項になりますけれども、選択したものを8ページに4

冊お示ししてございます。学校教育法附則第9条に基づきました一般図書、特

別支援学校用の教科書のいずれも、各学校の特別支援学級の担当者がそれぞ

れの学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の個性や発達段階、障がいの度合

等を考慮しまして、その子どもにあった最適な教科書は何かという視点で選

択をした204冊ということになります。各学校から希望が出された図書につ

きましては、教育委員会事務局教育指導課にて精査をしまして、問題がないと

いうことで、この一覧表を作成してございます。以上で説明を終わらせていた

だきます。ご審議くださいますよう、よろしくお願いいたします。

(質 疑)

和田委員長…これは、毎年行われていることですね。何か特別にございますでしょうか。

吉田委員…確認ですが、ご担当の先生方の良いと思ったものが適切かどうかは、すでに確認済ということで、お子さんたちに一番合った教科書がここに載っているということによろしいですね。

教育指導課長…委員のおっしゃるとおりでして、大変細かい資料で恐縮ですが、採択理由といたしますか、選択の理由も書かせていただいておりますけれども、各担当の職員が子どもたちに合ったものということで、挙げてきたものを一覧にさせていただきます。

吉田委員…特別支援学級で学ばれている児童・生徒は、個別性がとても高いと思いますので、日頃から児童・生徒を指導されている先生方のお考えに沿った教科書を使うのが一番かと存じます。

(その他質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決

(4) 協議事項 (1) 平成28年度使用中学校教科用図書の採択に向けての協議について

(教育指導課)

教育指導課長…それでは、本日の協議事項 (1) 「平成28年度使用中学校教科用図書の採択に向けての協議について」 ご説明を申し上げます。今年度は、平成28年度から使用いたします中学校の教科用図書の採択替えの年となっております。現行の学習指導要領に基づく2周目となる今回の検定では、19社129点が合格しておりまして、その中から小田原市の生徒に最もふさわしい教科書を教育委員の皆様へ採択権者として採択をしていただきます。本日の臨時会及び7月28日の定例会におきましては、採択の前段階としまして、1種目ごとにご協議をいただきます。具体的には、本日は、国語、書写、地理、歴史、公民、地図、数学、理科の8種目について、次回の28日には、音楽一般、音楽器楽合奏、美術、保健体育、技術、家庭、英語の7種目についてご協議をいただきます。最終的には、8月4日の臨時会におきまして、採択をいただくこととなります。協議におきましては、事前に皆様方に神奈川県教育委員会が作成いたしました「平成28年度使用中学校教科用図書選定に係る調査研究資料」と小田原市教科用図書採択検討部会の調査員が作成しました「平成28年度使用中学校教科用図書調査研究報告」をお送りさせていただいておりますが、これらの資料に加えまして、委員の皆様が独自に調査研究いただいたものをもとにご

協議をいただくこととなります。なお、7月15日に小田原市教科用図書採択検討部会を開催しております、その際に出されました部会員からの意見を本日参考資料として配布させていただきました。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

和田委員長…それでは、これより教科用図書採択の協議に移りたいと思います。

## ①種目 国語

和田委員長…はじめに国語科の教科書からはじめます。国語は、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の5社の教科書があります。小田原市の調査員の先生方の作成した調査票を、皆さんにお読みいただいていますので、本日の国語の協議の際の柱としていくつか観点を絞り込みたいと思いますので、協議の観点について、教育長から提示お願いいたします。

栢沼教育長…それでは、国語科の教科書採択における内容選択の観点として、3つほど挙げさせていただきます。1点目は、既習内容を定着させるため、繰り返し学習させる内容が充実しているかどうか。2点目は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、教材の内容あるいは言語活動例が適切に取り上げられているか。3点目として、読書に親しむ態度を養うための配慮がされているか。以上3つの観点が挙げられます。

和田委員長…只今、教育長から3点挙げていただきましたが、これから委員の皆さんからご意見をいただくわけですけれども、必ずしもこの3点に絞らなくても結構というような進め方でいけたらいいのかなと思います。とりあえず、今のことで私は申し上げますけれども、それにとらわれることなく、おっしゃっていただきたいと思います。それでは、1つ目の「既習内容を定着させるため、繰り返し学習させる内容が充実しているか」という観点についてはいかがでしょう。

3つに絞るとちょっとやりにくいですか。前回、そんなようなことがあったと記憶しています。そうしましたら、1つ目のことにとらわれることなく、教育長が挙げてくれた3つの観点について、どうぞご自由にお話いただければと思います。

萩原委員…東京書籍ですが、読書活動を継続的に行えるかという観点から、1年生から3年生まで300冊以上の本が教材の関連図書として紹介されています。読書案内というアイコンを用いて表紙写真付きで紹介されていて、とても良いと思います。

吉田委員…私も本の紹介について、どこも丁寧にされているなと思ったのですが、東京書籍の本の紹介がとても丁寧にされているという印象を受けました。それから、光村図書出版の本の紹介も分野別だったりして、親しみやすい紹介の仕方がされていて、本を読んでもみようかなという動機には良いのかなという感じがしま

した。

栢沼教育長…私としては、国語で読書に親しむことが非常に重要な観点だと思っております。そうした中で、東京書籍、あるいは、光村図書出版については、今、他の委員がおっしゃったことと同意見です。さらに三省堂についても、教材と関連させた「私の本棚」ということで、「読書の広場」というページを設けて、情報活用のヒントを非常うまく示してしまして、読書に親しむ態度の育成が図られている教科書かなと感じました。

和田委員長…私のから一つ。東京書籍には「ニュースの見方を考えよう」という池上彰さんが書いたものが載っていますが、誰でもが知っているような、圧倒的に人気がある人なので、これは子どもたちにとって、非常に関心を持ちやすいのではないかという感じがしました。それから、もう一つ、東京書籍の「読書への招待」というところで、『碑 (いしぶみ)』というものが載ってしまして、これは、ちょうど戦後70年というところで、非常にタイミングが良い題材だなと思いました。東京書籍の中で、いくつかこのような良い点があると思いました。光村図書出版では、2年生の教科書で「おすすめ35冊、読書案内を作ろう」というものが載ってしまして、小田原市は学校図書室の充実を目指していることから、一般的にどちらかというとは本離れをしているといわれている中で、この企画はとても良かったなと思いました。

萩原委員…光村図書出版の巻末に載っている漢字を練習するページがあるのですが、一つの漢字を筆順もすべて丁寧に紹介していて、さらに、とてもゆとりのあるレイアウトになっているので、見やすいと思います。また、椅子のアイコンを用いて学習の目標や振り返りが記されていますので、見通しがついて使いやすいと思います。

吉田委員…観点の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」についてですが、どれも丁寧に扱っていらっしゃって、ワークも入っているのですが、東京書籍の話し方のワークの中には、書くことを取り上げながらやるというようなワークがあり、総合力がつくかなと感じました。三省堂の教科書には、生徒がやると楽しいだろうなと思えるワークが用意されていると感じました。また、三省堂では、読む手助けになるような適切な脚注があり、私自身読んでいて、すごく読みやすいなという感じを受けました。文章構成の図式化等もあって、全体の読み方を体感できて、理解しながら読んでいけるという、読むことについてとても適切な支援が行われているという印象を受けました。

栢沼教育長…各社によって視点は違うのですが、神奈川県というか、小田原の関連の記載がどうかということで眺めてみたら、東京書籍では1年の『トロッコ』の作品の中に小田原が掲載されていました。それから三省堂については、同じく1年『トロッコ』の作品中に小田原が掲載、さらに2年の歌舞伎『外郎売』、この作品中に相州小田原が掲載されています。光村図書出版については、2年生で「気持ちを込めて書こう」という中で、お礼状の例として小田原市が掲載さ

れています。この3社に地元小田原が掲載されており、子どもたちの読書意欲  
というか、関心を引きつける教科書になっているなど感じました。

和田委員長…では、もう一つ私から。光村図書出版の中の「意欲的な提案をしよう」という  
ところで、プレゼンテーションの仕方というものが載っていました。今さまざ  
まなところで、自分の意見をプレゼンテーションで発表するという機会が多い  
のです。子どものうちからこのような力をつけていくというのは、とても良い  
企画だなと思いました。タイミングが良いなとそんな感じがいたしました。

萩原委員…教育出版で、巻頭に「この教科書の使い方」ということで、見やすくまとまっ  
ているのですが、そこに各教材における「話すこと・聞くこと」「書くこと」  
「読むこと」の目標と理解が要約されて書かれています。発展学習については  
「道しるべ」と書かれて紹介されています。各ページがとてもゆとりを持った  
レイアウトになっていて見やすいと感じました。色も全体的にやさしい印象を  
受けますので、ユニバーサルデザインを考えている色となっているようです。

吉田委員…学校図書で、古典の現代語訳の示し方がとても読みやすく、語句の説明も見や  
すいデザインというか、編集になっていたということと、現代文では、作品の  
読み方というか、読み方の視点とか、こういう視点で読むと良いのだろうなと  
思うような視点がたくさん示されていて、学びが深まるような気がいたしまし  
た。

和田委員長…皆さんからの意見が相当違って、もちろん違って良いのですけれども、今  
日の目的は少し絞りたいという気持ちが司会の方にはあるのです。もう少し積  
極的におっしゃっていただいて、だいたい見当をつけていかないといけないと  
いうところだと思いますが、どうでしょう。やはり、3つ全部広げてしまうと  
言いにくいですか。皆さん、調子が上がらないような気がするのですが。

栢沼教育長…先ほどの意見の中で、相対的、絶対的になんとなくみると、3社くらいに絞ら  
れるような感じはするのですが。

和田委員長…東京書籍、光村図書出版は概ね良いなというご意見が多かったと思いますが。  
特別になれば、2社に絞るという感じで、よろしいでしょうか。他に何かつ  
け加えたい、ぜひ自分の意見を出しておきたいということがあればどうぞ。

吉田委員…全体の意見としては、三省堂についても結構好意的な意見があったように思う  
のですが。他の委員の方はいかがでしょうか。

和田委員長…私が皆さんからのご意見が多いということで2社と申し上げましたけれども、  
吉田委員から三省堂も加えたらどうかというご意見がありました。それでは、  
今日はあくまでも予備の段階なのですが、今日の段階では、東京書籍、光村図  
書出版、三省堂というところの3社でよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…次回、今回の意見を参考にしながら、採択していくことにしたいと思います。

## ②種目 書写

和田委員長…それでは、次に書写に移りたいと思います。書写は、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の5社の教科書があります。では、教育長から協議の観点について挙げていただきます。

栢沼教育長…それでは、書写の教育採択における内容、選択の観点として、3つ挙げさせていただきます。1点目は、学習指導要領における改善事項の充実が図られているか。2点目は、既習内容の定着を図るための学習内容が充実しているか。3点目として、発展的な内容の取り扱いが適切であるか。以上3点を挙げさせていただきます。

和田委員長…それでは、今の3点を中心において、委員の方々からご意見を伺いたいと思います。意見がなかなか出ず、聞かれている方々は、まどろっこしい感じがするかもしれませんが、委員の皆さんは大量の資料を読み込んでいらして、私の場合、手元の資料をまとめたノートがすでに3冊にわたっているものですから、意見を探し出すのに時間がかかるのです。1冊にぱっとまとまっているわけではないものですから。言い訳してすいません。

萩原委員…教育出版で、巻頭に文字を書く画面を4つに分けて、目的にあわせて書こうということがはじめに計画がされています。また、日本の伝統と文化への関心につながるような歴史上の書がたくさん紹介されていました。身近な場所にも行書が使われている写真が紹介されています。街の中にある博物館のポスターであったり、題字であったり、石碑やのぼり旗であったり、こんな身近に行書があるということが紹介されていて、とても良いと思いました。それから、学習活動や日常生活に活かしていく書というものがいくつも教科書の中に掲載されていて、良いなと思いました。

吉田委員…教育出版ですが、他の教科との学習活動とか、生活との関連をかなり取り上げられていて、実際にこういう勉強をすることが役立つというような意識づけにつながるという感じがしました。それから、三省堂ですけれども「書の名手たち」というところを見ていて、書かれた文字が美しい、その文化ということを紹介されているところも発展につながるかなと感じました。学校図書におきましても、書初め見本等が見やすく、振り返りのプリントも見やすく掲示されています。最初に示された視点の学習指導要領における改善事項の充実という点では、どこもきちんとなされているので、どこがどうということは感じず、すべてしっかりと作られた教科書だということで、なかなか甲乙つけがたい気持ちはありました。どの教科書も迷ってしまうほど素晴らしいと感じました。

栢沼教育長…既習内容の定着という観点から見てみますと、光村図書出版の場合、1年から3年生まで見通して、習得あるいは活用を繰り返すことで、基礎基本が非常に定着できるような計画されているように思います。また、教科書全体が、基礎編と学習編、資料編と3部構成になっていて、わかりやすいと感じました。教育出版については、運筆のガイドが手本で示されて、実際に行書を練習するのに役立つなというところに注目してみました。また、三省堂では、硬筆については、「考えよう」から「書いて確かめよう」、毛筆については、「書いて確かめよう」というように、硬筆と毛筆が連携した学習パターンになっているところが非常にわかりやすいと思いました。発展的な内容という面で見ますと、三省堂の場合、1年生で「生活に活かそう」という単元で、その行事の目標を書こうという中や、あるいは1年の文化として書くという中に、年賀状と書初めという具体的な作品例やワークシート例が紹介されていて、そういうところに特色があると感じました。教育出版では、2、3年生で「学習を活かして書く」という、新聞を書く、あるいは掲示物とか、案内状を書くといった面で、生徒が日常生活に活かせるという場面が豊かになっているなど感じました。

萩原委員…光村図書出版で、毛筆の筆の運び方を強弱は「トン、スー、トン」の擬音語で表現されているのですが、筆圧の調整を「3の力、2の力、1の力」という数値化して表現しているところがとてもわかりやすいなと思いました。毛筆をどのくらいの力で運べばいいのかという、圧力のかかり方が数値化されているのは、わかりやすいと思いました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。だいたい皆さんがおっしゃってくださったようなところで、少し絞りたいと思いますが。できれば3社くらいに絞れたらいいと思いますが、いかがでしょうか。皆さんのお話の中でよく出てきたものは、教育出版、三省堂、光村図書出版だと思いますが、他にありますか。よろしいですか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、今申し上げた教育出版、三省堂、光村図書出版は委員の方々から評判が高いということで、この3社から次回採択していく方向でいきたいと思えます。

### ③種目 社会（地理的分野）

和田委員長…それでは、次に社会（地理的分野）の検討に移りたいと思います。地理は、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4社の教科書があります。では、



協議の観点について、教育長から提示をお願いいたします。

栢沼教育長…社会（地理的分野）教科書選定の観点として、3つほど挙げさせていただきます。1点目は、学習指導要領の教科書の目標をふまえているか。2点目は、社会的状況を反映した題材を取り上げ、生徒が興味を持って学習できるように配慮されているか。3点目として、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するために、社会的事象に関する基礎的な知識あるいは技能等を習得させるよう配慮されているか。以上3点が挙げられます。

和田委員長…それでは、今の観点、また委員の方々のお考えを聞かせてください。皆さん、用意した資料があちこちにあるものですから、やりにくいのだらうと思いますが。

萩原委員…東京書籍は、写真がとても綺麗で、地球の姿も美しく地球儀の学習に興味を湧くと思います。世界の姿から世界の広さを知り、日本の地理へと学ぶ形になっています。そして、各章の終わりに「深めよう」というコラムがあります。世界の課題等に焦点を当てて、歴史、伝統も学ぶと同時に新たな取り組み等も紹介されていました。子どもたちが国際社会に向けて関心を寄せるような、それに相応しいような内容が紹介されていると思います。第3章3節のコラムに、アフリカで日本のNGOが協力し、井戸の技術指導されている日本人たちの紹介があるのですが、このようなコラムの内容から子どもたちが、日本人は外国をこのような形で支援していると知るきっかけになるのではと思い、とても良い印象を持ちました。

山口委員…地理をあまり好きではない人もいると思いますが、最初に教科書の表紙をめくった時の印象を結構重視しました。東京書籍は、国旗といくつかの国の特徴ある写真が出てきて、この国はどこでしょうと当てさせるようなゲーム感覚で導入しています。だから、比較的入りやすいかなと思いました。帝国書院は、いろいろな世界にある日本の文化や技術を紹介しているのです。例えば、カラオケやけん玉がいろいろな世界で使われているとか、広まっているということを感じて、世界が身近になってくるのかなという印象を受けました。教育出版の写真は、本当に一言で綺麗です。ぱっと目を引いた写真で、行きたいなと思わせるような配置です。日本文教出版は、いろいろな国の中学生の写真が出ていますが、ああ、そうなんだと思う程度で、今までに挙げた3社に比べると、もっと行きたくなるような感じの方がよかったのかなと感じてしまいました。それから、どこの会社もよかったですね。日本文教出版は、単元の終わりに学習の確認と活用というところがあり、活用というのがとても良くできています。だいたい教科書に書いてある内容を利用して、さらに考えさせるようなところが良かったです。具体的に言えば、7月にどこそこの国へ旅行をする時の服装は、どういう服装が良いと思うかというように、気温とかすべてを考えあわせて、どうしたら良いのだらうかと考えさせるところが、ただの押しつけの知識だけでなく良いなと感じました。全然まとまらなくて、どこの教科書に絞る

かは難しいのですが、このような印象を受けました。

栢沼教育長…東京書籍は、社会的状況を反映した題材についてということからいいますと、各単元に関係する言葉の語源、あるいは各地域の話題等が「ティーブレイク」という形で紹介されていて、これは子どもたちが大変興味を持って学習できるように構成されていると思いました。帝国書院では、「身近な地域の調査」の中で、地域学習のテーマを決めるための視点が明確に例示されています。こういったことが、公民的な資質の基礎を養えるようになるなど感じました。また、多角的・多面的に資料を見ていく、あるいは、社会的事象に関する知識、技能という観点からみると、帝国書院の場合は、世界の様々な地域の調査、あるいは身近な地域の調査に係る資料を活用方法とか、調査結果のまとめ方等がしっかり取り上げられていて、学びやすいと感じました。東京書籍では、実際に情報を集めて資料を作成して、その資料から読み取れることやあるいは考えさせる、そういった発問がある点が評価できると思います。こういった学習が、社会的事象に関する基礎、基本の習得につながると感じました。

吉田委員…やはりどの教科書も工夫されていると感じました。特に教育出版では、地理の学習を通じて、社会に目を向けていく、マイノリティーに視点を当てた記述がとても良いと感じました。私は福祉分野の専門なので、そういう視点で見せていただくと、中学生にはこのような学びをいろいろな視点からしていくととても良いと思っていますので、地理という視点から貧困の問題とか外国人の問題とか多文化の共生の問題とか考えられるようなことに表現がなっていたと思います。それから、環境問題については、どの教科書でも扱ってはいるのですが、私としては東京書籍が一番心に響く記述があったということで、良かったと感じました。

和田委員長…他にいかがでしょうか。今までのところ、東京書籍、帝国書院、教育出版のご意見が多いようですが、4社のうち3社ということになりますが、そのあたりで絞るといえるのはいかがでしょうか。東京書籍、帝国書院、教育出版のご意見が多かったですね。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、今申し上げたとおり、東京書籍、帝国書院、教育出版の3社の教科書を候補にするということできたいと思います。

#### ④種目 社会（歴史的分野）

和田委員長…それでは、次に社会（歴史的分野）にいきたいと思います。歴史的分野の教科書は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社、学び舎の8社の教科書です。では、協議の観点について、教育長から提示をお願いいたします。

栢沼教育長…それでは、社会（歴史的分野）の観点について、3点ほど申し上げます。1点目は、学習指導要領における改善事項である、言語活動あるいは体験活動等の充実、さらには伝統文化に関する内容が充実しているかどうか。2点目として、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するために、社会事象に関する基礎的な知識あるいは技術等を習得させるよう配慮されているか。3点目として、思考力・判断力・表現力等の育成について配慮されているか。以上3つの観点が考えられます。

和田委員長…歴史的分野は8社と多いのですが、その中から皆さんのご意見に基づいて、何社かに絞っていききたいと思います。ご意見どうぞ。

萩原委員…清水書院の巻頭では、小学校で学んだ資料が時代ごとにまとまっていて、各時代の特色を表すキャッチコピーを作ろうということで、振り返りの学習ができるようになっております。そこが良いなと思いました。また「歴史のとびら」というところで、地域の博物館や郷土資料館等の利用、活用法を紹介しています。調べ学習や資料の読み取り等に役に立つのではないかと思います。最終章のところ、現在の社会と今後の課題と題して、東日本大震災の復興等を取り上げています。各章で最後に「まとめてみよう」というのがあり、グループディスカッションを積極的にできるような工夫があり、自分の意見を伝える、論じるということが養えるような教科書であると思いました。もう1つは教育出版で、巻頭見開きのところに歴史上の人物の顔写真と言葉があるのですが、そこに二宮尊徳が紹介されています。言葉も「飯と汁木綿着物は身を助く」というのがあります。他にも北条氏の虎の印判状のことが紹介されており、小田原に関連する題材が多かったなと感じて、印象に残っています。

栢沼教育長…特に言語活動とか体験活動あるいは伝統文化の観点から眺めてみますと、東京書籍は章ごとに体験的な調査学習をするための技能を身につけるためのコーナーというものが設けられており、これは子どもたちの興味関心をひくなと思います。教育出版では、章ごとに学習したことを自分の言葉で表現することを課題としていることと、もう一つは「郷土の歴史を探ろう」というページが随所にあり、歴史を体験的にとらえられるようになっていくところが良いなと思いました。清水書院では、地域調査、調べ学習といった取り組み、あるいは体験活動を取り入れた学習方法について触れているところは特徴があるなと思いました。また、帝国書院では、毎時間、自分の言葉で説明する作業が紹介されており、自分の学びを言語化して、振り返られるようになっていくところは、非常に無理なく言語活動が身につくというように思っております。先程、萩原委員からも話題に出ましたが、東京書籍をはじめ各社、小田原に関する中世の人

物として、北条氏の部分を取り上げられております。とりわけ教育出版では、二宮尊徳の巻頭の口絵とか、その中の歴史の中の言葉が載っております。また、小田原では、小学4年生が総合学習で二宮尊徳を取り上げ、全校で展開しているので、そういった面でも、小田原に関連した、地元の人物が取り上げられているということに着目しております。

吉田委員…他の委員からいろいろご意見が出ていましたが、私も教育出版の「自分なりの言葉で説明しよう」とか、「郷土の歴史を探ろう」というところは、とても良いなと思いながら読ませていただきました。復習の面では、小学校で学習したものの復習として、人物を取り上げて振り返りができるということで、学習が継続性を持って小学校から中学校へ入っていけるのではないかと思います。東京書籍では、「私たち歴史探検隊」というところで、調べ学習へ入っていけるような構成で良いなと思いました。さらに「説明しましょう」という課題が出ているところも、生徒たちが受け身ではなく、自分から学ぶという姿勢にいけるのかなと感じました。

和田委員長…歴史分野のところでは、全体の教科書をみて、どの社もすごく熱が入っているなというように感じられ、読み応えがある教科書だったと思いました。その中でも、東京書籍で、これは良かったなと思ったのが1点ありました。章の終わりや次の章にかかるところが、見開きで1ページに書かれているのです。歴史は違う時代に移るとつながりがよくわからないという部分があり、それが見開きでつながるようにだぶってくる形で表現されています。これは、学ぶ側の人間にとっては、とても優しさを感じると思うのです。わかりやすく良いなと思いました。それから、吉田委員がおっしゃったように、「私たち歴史探検隊」というところで、地域の歴史を調べてみようというのは、非常に具体的に項目を挙げてくれていて、子どもたちが調査に出ていきやすい作りになっていると思いました。

萩原委員…東京書籍に「深めよう」というコーナーがあり、その中に「すべての子どもに教育を」というコラムがあります。かつてすべての子どもが学校に行けたわけではない時代がありました。その当時、福祉教育をすすめた人物が紹介されています。今は当たり前に通う生徒たちですが、知ってほしい過去であると思いました。

和田委員長…今皆さんからご意見をいただいた中では、東京書籍が一番良いというご意見が多く、それから、教育出版、この2社のご意見が多かったです。清水書院のご意見もありましたが、いかがでしょうか。絞るには、2社にするか、3社にするか。では、皆さんが良いというご意見の多かった東京書籍と教育出版の2社を採択の候補にするということにしたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、社会（歴史的分野）については、東京書籍、教育出版の2社の教科書を候補にするということできたいと思います。

#### ⑤種目 社会（公民的分野）

和田委員長…それでは、次に社会（公民的分野）の教科書に移ります。公民的分野の教科書は、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7社の教科書です。では、いくつか協議の観点について、提示をお願いいたします。

栢沼教育長…それでは、社会（公民的分野）の採択の観点について、3点ほど申し上げます。1点目は、既習内容を定着させるため、繰り返し学習させる内容は充実しているか。2点目として、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察するために、社会事象に関する基礎的な知識や技術等を習得させるよう配慮されているか。3点目として、思考力・判断力・表現力等の育成について配慮されているか。以上3点が観点として考えられます。

和田委員長…それでは、皆さんからのご意見を伺いたいと思います。では、私から先に述べます。教科書を読んでみて、公民というのはものすごい量があるなど感じました。年々増えるのではないかという感じですね。これは、1年間のカリキュラムで修まるのかなというのが正直な感想です。その中で一番印象に残ったところを申し上げますと、教育出版の30ページの「言葉で伝え合おう」というところで、「情報リテラシーとはなんだろう」というものがありました。情報化社会に生きる私たちにとって、多くの情報、情報の洪水と言ってよいような状況の中で暮らしているわけですから、情報を入手し、活用する際の留意点や課題についてが、提示されています。これは、現代社会に暮らす人間としては、最も大切なことだと思いました。この時期にこのようなことをきちんと掲げている教科書の信頼性というものが印象に残りました。

萩原委員…清水書院の教科書の巻末にある資料集のところに、法令集、憲法が書かれているのですが、少し文字を大きくしているようで、とても読みやすいと思いました。法律の文章は文字が小さく詰まっていた見にくいことが多いのですが、他社のものよりもはるかに見やすいと思いました。それから、教育出版で、点字の仕組みを紹介しています。触ってわかるとか、誰もが暮らしやすくするために、ユニバーサルデザインによるまちづくりを学べるのでとても良いと思います。また、先ほど和田委員長がおっしゃった「情報リテラシーとはなんだろう」という単元は内容が素晴らしいと思います。

吉田委員…清水書院の人権の扱い方等がとても視野が広い、世界観が広く深いと感じ、い

ろいろな文章の端々にもそういうものを感じました。それから、教育出版の「振り返る」とか「読み解こう」では、知識をしっかりと確認して、考える基礎のところの正確な知識を段階的に身につけていくような仕組みがあり、ただ話し合ったり、伝え合ったりするだけではなく、そのもとにある大事な情報をしっかりと押さえられていると思いました。それから、東京書籍の方では、「深めよう」や「公民にチャレンジ」というところで、いろいろな思考力、判断力、表現力というところに、生徒たちがしっかりと取り組めるような仕組みになっていると思いました。「違いの違い」というのがあり、これは現代社会で課題になっているところを取り上げているとは思いますが、中学生がこれについて話し合っ、先生がどのようにして中に入っていくのだろうかと考えました。今の社会の中で、まだ評価がそんなに出ていない、いろいろな意見があるところで、いろいろな意見があるのだねというところで抑えるのか、担当された先生方のご意見がある場合、それが子どもたちを引っ張らないかなといろいろなことを思いました。しかし、テーマとしては、今の社会の中ですごく課題となっているところをたくさん捉えて、投げかけているので、素晴らしいなと思いました。ただ、扱う先生方がとてもご苦労されるのではないかという感じはします。

栢沼教育長…特に社会科では、授業の中で思考力や判断力、表現力をどうつけるかということが、社会科なればこそ難しいというところがあるのですが、そのような中でみると、東京書籍では、章末のところに、「この章の学習を確認しよう」というところがあり、3つの力、思考、判断、表現力の育成がされやすくなっていると思います。全般的には、話し合いやグループ活動がしやすい教科書かなと感じます。教育出版については、グラフや写真、あるいは地図等の資料を読み取って、社会の動きを考察していく、「読み解こう」というコラムが設けられています。調べ学習に取り組みやすい教科書となっていると思いました。清水書院につきましては、学習内容について考えたり、あるいは話し合ったり、調べたりする視点、いわゆる「調査」というところが設けられているところが良いなと思いました。日本文教出版については、「アクティビティ」というコーナーがありまして、そこにグラフや写真等の資料、あるいは学習課題が示されていて、子どもたちが作業を通して、考えたりすることを表現するという学習活動が設定されているなと思いました。日本文教出版の教科書は、全般的に情報を読み取る力がつくような特徴があると感じました。

和田委員長…それでは、また私の方から述べます。東京書籍ですが、110ページの「公民チャレンジ」で「私たちの政治参加」というものがあります。これは、選挙権が18歳に引き下げられるということで、タイミングが良いのかなと思います。中学生の段階から中学生としての社会参加の仕方が具体的に示されています。これが良かったなと思いました。それから、「公民にアクセス」というところで、「社会保障を支える人々」というのがあり、高齢化社会で若い人々が担い

手になっていかなければならないということを取り上げています。それから、135ページに今の課題である「正規雇用と非正規雇用について考える」というテーマもありました。あと、175ページに「TPP」の問題も取り上げられています。いずれも関心の深いテーマだと思いますし、これらが東京書籍の教科書に載っていて、良かったなと思いました。

吉田委員…私も和田委員長と同じように、東京書籍の教科書には、現代社会や歴史的経緯を汲みながら、今、考えなければいけない話題がたくさん扱われていると感じました。たくさん話題が扱われていると、先程も言いましたが、先生方頑張ってくださいという感じになると思いました。しかし、教科書で扱っておくと、この時期に生徒たちがいろいろなことを考え、視野が広がる。自分のまわりにいる人だけではなく、普段自分が出会わない人やいろいろな立場にいる人たちについて考えながら、社会観や価値の形成等をしていく道のりの途中にある人たちにとっては、良いテーマがたくさん扱われているととても感じました。

和田委員長…皆さんからご意見をいただきましたが、2社か3社に絞っていきたいと思いますが、いかがでしょうか。良いというご意見が圧倒的に多かったのは東京書籍。その次に教育出版、それから清水書院というところだと思います。3社を採択の候補にすることでよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…では、改めて、東京書籍、教育出版、清水書院を候補にしたいと思います。

## ⑥種目 社会（地図）

和田委員長…それでは、次に社会（地図）に移りたいと思います。地図は、東京書籍、帝国書院の2社です。では、協議の観点について、教育長から提示をお願いいたします。

栢沼教育長…それでは、社会（地図）について、教科書選定の観点として、4点ほど挙げさせていただきます。1点目は、学習指導要領の教科の目標を踏まえているかどうか。2点目は、社会的状況を反映した題材を取り上げ、生徒が興味を持って学習できるよう配慮されているか。3点目として、他教科との関連は必要に応じて取り上げられているか。4点目として、内容が全体として系統的・発展的に組織・配列されているかどうか。以上が挙げられます。

和田委員長…それでは、観点を4点挙げてもらいましたが、それ以外でも委員の方々のご意見をお伺いしたいと思います。

萩原委員…東京書籍ですが、全体的にとっても見やすいような気がします。色が抑えられていて、すべての生徒の色覚特性に適用するデザインがされているということが良いと思います。地図の色が強烈ですと、見ていて疲れるところがありますので、その点が良いと思いました。それから、統計のところ、例えばアフリカの5歳までの死亡率が示されていて、これを見れば国の状況がわかるようになっていてと思います。また、世界と日本の資源、エネルギーについてグラフにしています。これを見ると、世界の主な国々の発電の仕方や割合がわかりやすいと思います。日本の発電の種類、火力、水力、原子力等のグラフを見ると、一番少ないものが再生可能エネルギーで、かなり少ないことがグラフでわかります。日本の現状と外国との違いがグラフから読み取れ、良いと思いました。帝国書院は、カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮していますと明記されておりました。東京書籍に比べて、私にとっては、きつい色だと思いました。それから、領土に関する記載は正しくされておきますので、そこは問題がないと思います。また、日本全体の災害、防災について、地震や火山の分布や、東日本大震災の被害についてもかなりページを取って取り上げていますので、良い資料だと思いました。

山口委員…どちらの地図も見っていて楽しいです。すごく悩むところです。帝国書院は、世界の地域図の次のページに、地域の資料図があるのですが、そこに必ず、日本との結びつきというのが1つの表というか、図ででているのです。今、これだけグローバルな世界で、世界のどこへでも日本のものが輸出されるし、向こうからも輸入されるし、そういう時代でも、本当に知らないような国とどんな結びつきがあるのだろうと考えさせてくれるので、これからのことを考えると良いかなと思いました。同じような感じで東京書籍は、日本の地域図の次のページには、地域の基本資料というものがあるのですが、これは自然環境と降水量と人口密度と工業の4つのテーマが必ず出ています。同じような内容ででているので、地域を比較するときは良いかなと感じました。あと、だいたい地図の教科書は、世界の地図と日本の地図と最後に資料集、統計資料がでているのですが、統計資料は、帝国書院は東京書籍より1年ずつ新しいです。今から3年半使うことを考えると、少しでも新しい方が良いのかなと感じました。インデックスというか、色で世界と日本と資料を分けているのが、帝国書院になります。ただ、地理の教科書は、右手で前の方からパラパラとすると色がでてくるのですが、地図は左手で後ろ側からやっとな色がでてきて、同じ会社でも作りが前後逆だなと感じました。しかし、ぱっと見て、自分がいききたいところに行くには、少し色分けがしてあるほうがわかりやすいと感じました。

和田委員長…細かいですね。

山口委員…たまたま、見ていたら、左手用と右手用でわかれていたというか、違ったので。和田委員長…気がつきませんでした。他にいかがでしょうか。2社ですからね。私は、継続でも良いのではないかという気もします。



吉田委員…私は、どちらにするか選びづらいです。

和田委員長…それでは、地図は2社ですから、継続というところで、2社とも候補ということにしたいと思います。

(異議なし・全員賛成)

## ⑦種目 数学

和田委員長…それでは、次に数学の教科書に移ります。数学は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版啓林館、数研出版、日本文教出版の7社の教科書があります。それでは、協議の観点について、提示をお願いいたします。

栢沼教育長…それでは、数学では教科書選定にあたっての観点として、3つほど挙げさせていただきます。まず、1点目は、既習内容を定着させるため、繰り返し学習させる内容は充実しているかどうか。2点目として、社会的状況を反映した題材を取り上げ、生徒が興味を持って学習できるように配慮されているか。3点目として、数学的活動として、数や図形の性質等を見出す活動、数学を利用する活動、及び数学的に説明し、伝え合う活動が適切に配列されているかどうか。以上3点が考えられます。

和田委員長…それでは、ご意見を伺いましょう。

萩原委員…学校図書で、基本を踏まえながら発展的な内容として、例えば、「船の位置を求めよう」「CTスキャンと数学」「震源までの距離」等、数学と関連する題材がとても面白く、子どもたちが興味を示すのではないかと思いました。「自動車の制御距離」「樹木の成長」「GPS」等、生活と関連した内容を数学的に学ぼうということで紹介されています。そこが良いと思いました。

山口委員…どの教科書も皆よくできています。私が習った頃は、こんなに丁寧な教科書はどこにもなかったと思うくらい、素晴らしい教科書ばかりです。私は、理系なので、はっきりとした教科書の差はわからないくらいなのですが、ちょっとつまづきそうになった時に、どの教科書が少しでもわかりやすく、理解を助けてくれるかなという観点でみると、わかりやすかったのが、東京書籍と数研出版でした。数研出版の教科書は、わかりやすく進んでいくような感じになっていました。知識を習得させるようなところでは、やはり東京書籍、数研出版が良いです。東京書籍は、数字だけ変えたような同じ計算を続けてたくさんさせるような感じではなく、引っ掛かりやすいところをどんどん出題していたので、良いと感じました。例えば、不等号のある式で掛け算をさせる場合、不等号の右側の方と左側の方、両方に同じ数を掛ければ良いというような不等号を扱っている問題が、他の教科書には見当たらなかったし、正と負の数の掛け算

で不等号の時に困ってくることもでてくるだろうから、1問、2問だけだが、そういうものを扱っている東京書籍の教科書は良いと思いました。また、知識以外のところに活用させるようなものがあったのは、東京書籍と新興出版啓林館で、良いなと思いました。数学に興味を持たせるような内容がたくさんでていました。例えば、小町算やエッシャーのだまし絵のこともでていました。その中で、東京書籍がやはり良かったのは、いろいろな広告があつて、「当社のこの製品は、これだけ売上げが伸びていますよ」というグラフがあつた時に、その裏を見させる、裏を考えさせる、基準がどこにあるグラフなのかとか、本当に毎年見ているのかとか、誇張した感じで広告をするのは当然なので、それに騙されないようにしましょうねというような感じで書いてあるところです。このようにグラフの見方を斜めに見るような感じのところが良いなと思いました。

吉田委員…私は、山口委員と違って、数学がとても苦手なので、一生懸命に読ませていただいたのですが、東京書籍は、問題が「基本の問題」、「A」と「B」の問題があり、練習問題を段階的に、繰り返し勉強ができるという点で苦手な私でもついていけそうな気がしました。それから、とっつきやすさという点では学校図書です。キャラクターやコラムが効果的で、数学を拒否するような気持ちがあつても、そこで少し一息ついて、入っていけるかなという感じを持ちました。数学が苦手な私でも、この2社はとっつきやすいという感じを受けました。

栢沼教育長…数学の場合、子どもの能力が高い、低いというレベル、苦手な子で差がでてる教科です。各社の問題の量、数については、実際の現場の先生の扱い方によるのかなと思います。仕組みで、流れ作業的に学習スタイルが決まってしまうのか、枠にはまってしまうというのではなく、時には立ち止まって、つまづいた時に、どうしてなのかとか、なぜかと考えさせるような数学というのが非常に大事なのかなと思います。東京書籍の場合には、繰り返し学習という点では、秀でていてという感じがしました。また、発達段階あたりにも非常に考慮しているとも思いますが、少々問題の数が多いかなという感じもします。そこは、指導者の対応で調整できるのかなと思います。大日本図書の場合には、全体的に基本的な問題が多いという感じがしました。学校図書については、図や写真が数学にしては非常に多く掲載されているという特徴があると感じました。新興出版啓林館については、問題のレベルが少し高いという感じはするのですが、それをカバーするように段階的に構成されている点で、工夫がされていると感じます。全体的には、どの社も基礎、基本的な、あるいは発達段階に応じたスパイラル学習というものが工夫されていると思っております。

和田委員長…小学校から中学校へ移るときに、いきなり言葉が、今まで使われていなかった言葉がたくさん入ってくるのです。これをつまづく子どもが圧倒的に多いのです。言葉についていけない、それをきちんと橋渡ししてくれている教科書がないかと思ったのが、選択するにあたっての1つの視点です。もう1つは、ノー

トの書き方に注目しています。数学が良くできる子のノートは綺麗です。きちんと書いています。そのあたりのところ、ノートの書き方の指導は、各社ともやっています。やっちはいるのですが、多少の違いはあったかなと思いました。それから、3つ目の視点としては、繰り返しで定着ができていくかどうかというところですね。そういう視点から言うと、定着については、どこの社も繰り返し、気を使ってやっていると思いました。特に語句や定義について、生徒がきちんと注意を向けて取り組むように工夫をしていたのは、学校図書だと思いました。そこに重要マークをつけているのです。ほとんどの会社は、大切なところは色で囲ってあるのですが、学校図書では、それに加えて、さらに「重要」と書いてあり、語句の説明で丁寧さを感じました。数学なのに、言葉と思うかもしれませんが、数学は、あくまでも約束事で進んでいるだけです。1つ語句の意味がわからないと、そこでつまづいてしまうのです。だから、そういう意味で、きちんと語句の説明をされている学校図書が一番気を配っていると感じました。ノートのところでは、新興出版啓林館が行き届いていると思います。非常に細かい注意をしているのです。例えば、分数は2行を使って書きなさいとか、途中の式もきちんと書きましようとか、小文字のbは数字の6と間違いやすいから筆記体のbで書きなさい等、数学をやっている人にとっては当たり前のことでも、このような優しさがほしいのです。掛け算とXも同じです。図は丁寧にということは、どの社も同じように書いてありましたが、計算だけでなく、そこにきちんと図も書きましよう、できれば、色をつければもっと良いですよというように、「ノートを工夫して学習に役立てよう」というタイトルをつけて書かれていたのが新興出版啓林館でした。ノートに関しては、新興出版啓林館が一番だという感じがしました。さて、意見は出尽くしましたでしょうか。今、皆さんからいただく意見では、良いというものが圧倒的に多かったのは、東京書籍。それから学校図書です。他にぜひというものがあれば。

山口委員…新興出版啓林館を入れても良いのではないかと思います。

和田委員長…私が推していた新興出版啓林館を3名の方が勧めてくださっているのです。それでは、東京書籍、学校図書、新興出版啓林館の3社を候補にするということで、よろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、数学は東京書籍、学校図書、新興出版啓林館の3社にいたします。

## ⑧種目 理科

和田委員長…次に理科に移ります。理科については、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版啓林館の5社の教科書があります。それでは、協議の観点について、提示をお願いいたします。

栢沼教育長…それでは、理科の教科書選定の観点といたしまして、3点挙げさせていただきます。1点目につきましては、科学に関する基本的な概念の定着や科学的な見方あるいは考え方等が育成できるよう配慮されているか。2点目として、科学的な思考力、表現力の育成が図れるよう、観察・実験を主体的に行い、結果を分析し解析する能力や、考えを表現する能力の育成に配慮されているか。3点目として、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、関心を高められるよう、日常生活との関連や環境教育の充実が図られたりするよう配慮されているか。以上の3点が挙げられます。

和田委員長…それでは、皆さんからのご意見を伺いたいと思います。最初に私から述べさせてもらいます。東京書籍の3年生の第1章「水溶液とイオン」というところで、基礎操作という項目で、レポートの書き方というのがありました。これは、項目ごとにすごく丁寧に書かれていました。これを読んで見ながら、例のSTAP細胞の事件を思い出しました。きちんと記録がなかったがゆえに、だめでしたよね。この年代からきちんとレポート、記録をつけていくということを学んでいく。すごく当たり前なのですが、タイトルを最初に書いて、実施した人や実施日を書き、目的を書き、準備して、実験方法を書いて、結果を出し、考察する。すごく当たり前のことですが、いわゆる研究者の世界、実験をする人間として、この段階から習慣づけていかないといけないということを思いました。わかりやすく指摘していたと思いました。

萩原委員…私も東京書籍で、2年生の巻頭のところに周期表があるのですが、そこに原子記号と名前の下にその原子が使われているものの例や発見した科学者も紹介されていて、これは面白いなと思いました。原子記号だけが並んでいるよりも、この原子はこういうものに使われているのだと、そのものが写真で載っていると、子どもたちは覚えやすいかなと思いました。それからどの出版社も写真が素晴らしく甲乙つけがたいです。ただ、どこの会社もそうだったのですが、写真に引き込まれてしまい、どこの会社が良いかわからなくなるくらいでした。学校図書では、科学を仕事に活かして働く人たちを各章で何人か紹介しているのですが、職種が多様で、理科を学ぶとこういう将来につながるのだということを想像できるところが、生徒たちは興味を持ってくれるのではないかと思います。エンジニアだけではなく、医師や看護師、保育士、スポーツ栄養士、水族館の飼育員等も科学の仕事につながるということを伝えています。とても興味がありました。

吉田委員…東京書籍ですが、「調べよう」「推測しよう」「学びを活かして考えよう」「学んだことをつなげよう」という科学的な思考方法を、プロセスを経て身につけて

いくような構成になっていると感じました。実験についての記述は、学校図書がとても丁寧に扱っています。実験の結果例や考察とまとめがわかりやすく明示されているというところで、私としては、実験のやり方では、学校図書がわかりやすいと思いました。大日本図書は、巻末の課題研究についての扱いが、とても発展的に取り組む素材を提供していて良いなということと、まとめというところで、内容を整理できるところで、復習をしたり、発展させたりというような構成の工夫が感じられました。

栢沼教育長…科学を学ぶ意欲や有用感という点、理科で科学への関心や環境教育との関係からみますと、各社ものづくりに関しては、東京書籍では、「ループコースターを作ろう」とか、付録でペーパークラフトを取り扱っています。また、環境に関する部分でも東京書籍は、「働く微生物」という持続可能な社会を目指す国際的な取り組みが取り上げられており、なかなか良いなと思いました。大日本図書では、「水ロケットを飛ばそう」とか、自由研究の内容が取り上げられています。自由研究については、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版啓林館いずれも、自由研究に関してのものづくりについて触れていて、それぞれ適切かなと思います。なお、大日本図書では、特に環境教育でも水の浄化とかが取り上げられています。科学を学ぶ意義や持続可能な社会に向けてという点では、東京書籍、あるいは大日本図書のものは、特徴がしっかりつかまれていると思いました。

和田委員長…私は教員時代、理科の教師でしたので、感じているところを申し上げます。大日本図書の2年生のところで「熱を吸収する化学変化」という実験Qというのがありまして、最初に炭酸水素ナトリウムをまず真水に入れ、レモン汁を入れることを示した後、それから本格的な実験に入っているのです。そのプロセスが非常に導入として良かったなと感じました。また、実験のタイトルをそのものにしていうところ、実験をやっている内容とタイトルが違うことが時々あるので、まさにそのまま挙げておいた方が良いというところで、この教科書の場合は、実験のタイトルが皆共通して、ピタッと当たっています。それから、当然のことですが、どの社も皆同じだったのですが、用意するものが1つずつチェックできるようになっています。そのチェックの欄がとても見やすくできている感じがしました。1つでも準備するのを忘れると、実験が成り立たないですから、きちんと準備していくことができる。それから、もう一つは、実験中に何か薬品に触れたりした場合の処置の仕方を「注意」というところで、色つきで書いてあるところも良かったなと思いました。実験の時には、我々現場では非常に気を遣ったのが現実ですので。もちろん実験結果を記録して、結果から考えてみようということで、考察の視点もきちんと取り上げられていたと思います。振り返りで、「熱を吸収する化学変化は何といいますか」というように、やったことをきちんと振り返る、確認をするということもあり、このプロセスがいかに科学を学んでいるという感じがして、私は良かったと思いま

した。これは、2年生のここだけではなくて、教科書全体にこの流れが踏襲されています。これで大日本図書のその進み方は良いと思いました。

他に皆さんからご意見があれば。今のところ、東京書籍、大日本図書が良いというご意見が多かったのですが。あと、学校図書がこれらに続くという感じ。学校図書を入れて、3つにするかどうかというところだと思えますが。候補にすると、それだけ皆さんが勉強しなくてはならなくなるので、宿題が多くなります。3社が良いですか。2社の方が良いですか。理科系でない吉田委員はいかがですか。

吉田委員…学校図書は実験がとてもわかりやすかったので、私は推していました。

和田委員長…そうでしたね。それでは、改めまして、東京書籍、大日本図書、学校図書の3社を候補とすることで、次回決めたいと思います。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、本日は、これで種目ごとの協議を終了いたしました。28日に開催いたします教育委員会定例会の中で、引き続き残りの種目ごとの協議を行いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。今日の候補になった教科書は、事務局からきちんと委員の方々にはお知らせください。

指導・相談担当課長…それでは、候補に残ったものをまとめさせていただきます。まず国語です。東京書籍、三省堂、光村図書出版の3社でございます。書写です。三省堂、教育出版、光村図書出版の3社でございます。社会（地理的分野）につきましては、東京書籍、教育出版、帝国書院の3社となっております。社会（歴史的分野）におきましては、東京書籍、教育出版の2社でございます。社会（公民的分野）につきましては、東京書籍、教育出版、清水書院の3社でございます。地図は2社とも、東京書籍、帝国書院とも残っております。数学でございます。東京書籍、学校図書、新興出版啓林館の3社でございます。理科でございます。東京書籍、大日本図書、学校図書の3社でございます。以上です。

## (5) 委員長閉会宣言

平成27年8月20日

委員長

署名委員（吉田委員）

署名委員（栢沼委員）